

## スイートコーン (ハウス)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型	◇ ○ — ○ ————— //											
主な作業	保 播 収 温 種 穫 開 穫 始											

スイートコーン イネ科、原産地：中南米

作物名 スイートコーン

学 名 Zea mays L.

作型 ハウス

### ————— 技 術 体 系 —————

#### 1 作型の特徴

生育前半が寡日照・低温、後半は高温条件となる経過をたどる。品種選定において早生性、低温伸長性、多収性が前提となり、次いで外観、高品質、耐倒伏性等の順となる。低温時の播種であるため、ハウスやトンネル等は早めに準備して地温を上げておく。また、育苗した苗を定植する方法も位置導入されている。労力を要するが、発芽不良等のトラブルを回避する有効な手段である。

#### 2 適応地域

平坦地域

#### 3 栽培条件

##### (1) 温度

生育適温は、日平均気温 22～30℃。温度の日較差は 10℃くらいあるほうが望ましい。夜温はある程度低く、15℃くらいが望ましい。

##### (2) 水

全生育期間を通じて 10 a 当たり 350～500 t が要求される。特に開花、受粉の前後の約 10 日間は雌穂先端の不稔を予防する為に、最も水が必要である。

##### (3) 土壌条件

深根性の作物であるため耕土が深く、腐植が多く、排水良好で保水性に富む土壌が適している。

深耕、有機物施用が良品生産の不可欠条件となる。

#### 4 施設装備

最も簡易なパイプハウスを用い、開閉式の一層カーテンがあると保温をする上で有利であるが、地温が確保できるならば二重トンネルで十分である。

(1) パイプハウス

(2) 内張りカーテン又は2重トンネル

#### 5 経営目標

(1) 収量 1. 5 t/10a

(2) 投下労働時間 200時間/10a

(3) 所得率 40%

(4) 経営規模 30 a

(家族労働力 2 人の場合)

### ————— 栽 培 技 術 —————

#### 1 品種と特性

##### 品種選定

早生性、収量、品質を重視した選定を行う。

モノカラー種 味来 130、未来 390、ゴールドラッシュ

#### 2 本圃準備

##### (1) 播種準備

耕起、畦立て、除草剤散布、マルチの作業は早めに行い、地温を上げておく。土壌が乾燥している場合は、灌水または降雨後にマルチする。分解性マルチを利用するとマルチのまま土寄せができ、栽培終了後もそのまま鋤き込むことができるので省力化になる。吸肥力の強い品目なので、肥料は不足しないよう注意する。

##### (2) 施肥

播種の 15～20 日前、土壌水分がある状態で堆肥、肥料を全面散布し混和する。

	施肥量 (kg / 10 a)		
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
基肥	25	30	25
追肥	10	0	10
合計	35	30	35

### (3) 畦立て

土壤水分が適当なときに、畦幅 140cm、高さ 10cm の平畦床を作る。排水不良地は 20cm の高畦とする。

95cm 幅、株間 30cm、条間 30cm の 2 条千鳥配列の穴あきマルチを張り、2 重トンネルをかけて地温を 13～15℃確保する。

### 3 播種

10 a 当り 4～6 粒程度準備し、マルチ 1 穴当り 2～3 粒を播種する。

地温が低いと発芽まで時間がかかり腐敗する等、発芽障害の原因となるので、地温は十分に確保しておく。

育苗を行う場合は、専用ハウスにカーテンとトンネルを準備する。98 穴セルトレイに 1 粒ずつ播種し、十分灌水する。乾燥しないよう、濡らした新聞紙をかぶせ、発芽後除去する。約 3 週間後、本葉 3 枚で定植適期となるので、定植前に徐々に換気し、外気にならす。

### 4 補植苗の準備

4 号ペーパーポットを用い栽植本数の 5～10% 程度準備する。苗は 3 週間程度で定植適期となる。本葉 3 枚で補植するが遅れると生育が著しく悪くなるので注意する。

### 5 播種後の管理

#### (1) 間引き

間引きは本葉 4～5 葉期に行い、生育の揃った株を 1 本立ちにする。間引く株は根を傷めないよう先の細いハサミ等で地際部から切断する。

#### (2) 温度管理

発芽まではトンネルを密閉する。発芽後はトンネル内 30℃を目安に換気する。

トンネル除去は 3 月下旬頃に行う。ハウス内は日中 27～28℃、夜間 15℃を目安に温度管理する。

#### (3) 灌水

開花期から収穫期までに水分が不足すると、先端

不稔、穂の肥大不足につながるので灌水量を多くし、乾燥させないように適湿を保つ。

#### (4) 追肥

本葉 6～7 枚の頃、1 回目の追肥を行い、雑草防止と株元固定を兼ねて土寄せする。2 回目の追肥は雌穂抽出初期に行う。各々窒素成分で 10 a 当り 5 kg 程度をマルチの両側に施す。

#### (5) 除けつ

除けつは通常行わない。無除けつ栽培には、  
 ①雌穂が大きくなって収量が増加する。  
 ②先端不稔が少なくなり、品質が向上する。  
 ③作業の省力化が出来る。  
 ④倒伏に強くなる。  
 など多くの利点があるので、株元から発生する 2～3 本の分けつは取らない。

#### (6) 除房

除房は葉銷を傷つけることがあるので特に行う必要はない。

### 6 病虫害防除

アワノメイガ、アブラムシの防除を行う。

### 7 収穫と出荷

絹糸抽出 20～25 日前後で絹糸先端がやや褐変し、子実が乳白色に変化したときに収穫する。収穫は早朝に行い、涼しい場所で調整、荷造りする。